

3・2 青潮発生状況

2022年4月から2023年3月までの青潮発生状況を表2に示す。2022年度には6回の青潮が確認されており、8月22～23日に発生した青潮では、谷津干潟の一部で小魚のへい死報告があった。その他の5回の青潮については、いずれも3～5日程度で解消し、漁業被害等の報告はなかった。

表2 2022年度の青潮発生状況

| 期間 | 発生場所（最大時） | 漁業被害等 |
|------------|-----------------------------------|----------------|
| 6月8～10日 | 船橋港, 千葉中央港 | 報告なし |
| 7月7～11日 | 船橋港内, 幕張沖～稲毛の浜～千葉中央港～姉崎航路北側 | 報告なし |
| 8月5～8日 | 市川航路～船橋港～茜浜～幕張沖～稲毛の浜～千葉中央港 | 報告なし |
| 8月22～23日 | 市川航路～船橋航路～幕張沖～千葉中央港, 富津漁港～富津航路 | 小魚のへい死 報告あり |
| 8月30日～9月1日 | 市川航路～船橋港～茜浜～幕張沖～稲毛の浜～千葉中央港 | 報告なし |
| 9月12～14日 | 市川港内～船橋港～茜浜～幕張沖～稲毛の浜～千葉中央港 | 報告なし |

3・3 青潮発生前日における周辺海域の水質

船橋港で青潮の発生が確認された6月8日の前日の6月7日にSt.3（京葉港沿岸）で行った多項目水質計による鉛直方向水質調査データを図2に示す。St.3の表層DOは4mg/L以上を示していたが、水深2m以深では0mg/Lに近い値を示していた。酸化還元電位（ORP）の値は、表層から水深3m付近まで160mV前後を示していたが、水深3m前後で急激に低下し、水深3.5m以深では負の値を示した。また、気象庁千葉気象観測所によると6月6～9日の期間では北東向きの風の連吹が観測されていた³⁾。これらのことから、6月7日の時点では、貧酸素化した底層水は北東風の影響により表層付近まで湧昇してきてはいるものの、表層のDOは4mg/L以上が保たれ、ORPも酸化性の高い正の値を示しており、まだ青潮には至っていなかったことが水質データからも示唆される。

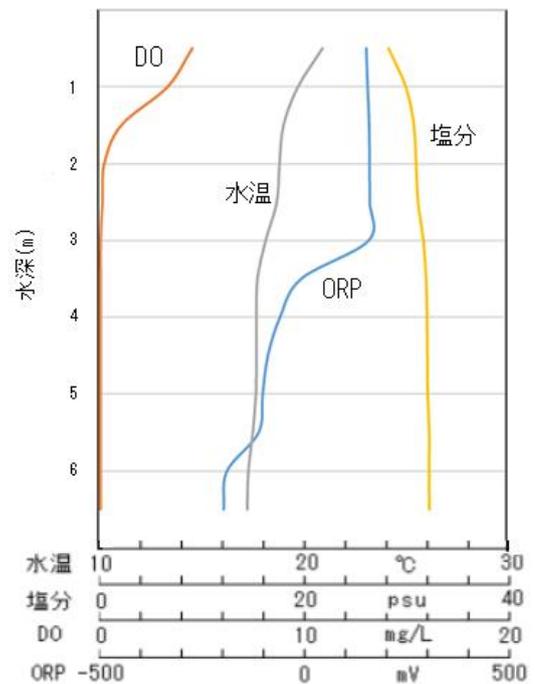


図2 6月7日の鉛直方向水質データ (St.3)

引用文献

- 1) 飯村晃, 東京湾のモニタリング. 表面科学 36 (4) . 207-208. 2015
- 2) 東京湾の青潮発生状況. 千葉県環境研究センター年報 (2020～2022).
<https://www.pref.chiba.lg.jp/wit/suishitsu/report/index.html> (2023年8月時点).
- 3) 国土交通省 気象庁 過去の気象データ
<https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php> (2023年8月時点).